

入選

ヘルプマーク

奈良県 生駒南中学校

二年 北郷 真白

私は中学一年生のとき、友だちと二人で電車に乗って、少し遠くまで遊びに行きました。帰りも、二人で電車に乗って帰ろうとしていました。私たちは席が空いているときに乗れたので、二人で席に座っていました。

ちょうど夕方くらいだったので、しばらくしたらすぐに人でいっぱいになって、座れる座席もなくなりました。そのとき、一人のおじいさんが電車に乗ってきました。そのおじいさんは、背負っていたリュックに「ヘルプマーク」をつけていました。

けれど、座れる席がないので、ずっと立ったままになっていました。私たちは最初、そのことに気づかず、座ってずっとおしゃべりをしていました。しばらくして、私がおじいさんがヘルプマークをつけていることに気がつきました。

私は、席を譲ろうと思ったけれど、自分から知らない人に話しに行くのは苦手なので、どうしたらいいかわからなくなりました。しかし、譲らないとそのおじいさんが大変だと思って、隣にいた友だちの肩をトントンして、友だちにも席を譲ろうと言って、二人で席を立ておじいさんに席を譲りに行きました。

話しに行くのは緊張したし、怖かったけれど、おじいさんに、

「よかったら席どうぞ。」

と言いました。すると、おじいさんはすごく嬉しそうな顔をして、

「いいんですか？ ありがとうございます。」

と言って、席に座ってくれました。そのとき私は、最初は怖かったけれど、席を譲れてよかったなと思いました。そして、そのおじいさんが電車を降りるとき、私たちの方を見てすごく大きな声で、

「席を譲っていただき、ありがとうございました。」

と、すごく嬉しそうに言ってくださいました。

大きい声で言われたので、電車の中にいた人たちにいっぱい見られて、恥ずかしかったけれど、とても嬉しかったです。

私は、このことを体験して、もっといろいろな人にヘルプマークのことを知ってほしいなと思いました。私がSNSを利用していても、たまにヘルプマークについて紹介しているものを見かけたりするけれど、「ヘルプマークを初めて知った」などと言う人もいて、知らないヘルプマークの意味がなくなるし、障がい者の方たちが生活しづらい環境になると思うので、ヘルプマークのことをいろんな人たちに知ってほしいです。

そして、ヘルプマークをつけている人を見かけたら、声をかける人が一人でも増えたら良いなと思いました。